



令和 2 年 7 月 2 1 日

青梅市教育委員会

教育長 岡 田 芳 典 様

青梅市社会教育委員会議

議長 宮 野 良 一

成人年齢引下げに伴う青梅市成人式のあり方について(助言)

令和 4 年 4 月 1 日から成人年齢が 1 8 歳に引き下げられることに伴い、成人式の対象年齢をどのよう扱うかについて、全国的に議論されているところであるが、社会教育委員会議では主催者の立場として、下記のとおり執り行うことを助言する。

記

- 1 対象年齢 2 0 歳 (現行どおり、2 0 歳を迎える年齢の 4 月 2 日から翌年 4 月 1 日生まれを対象とする。)
- 2 実施日 成人の日
- 3 理由

以下のことから、現行どおり 2 0 歳を対象として今後も実施することが望ましいと考える。ただし、新たに 2 0 歳は成人年齢を過ぎることになるため、2 0 歳を祝う会等、名称を変更して実施することが望ましいと考える。

- (1) 成人式を開催する目的は、おとなになったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますことであるが、社会教育的な意義としては、成人となる時期に同級生と再会する機会を作り、地域で培った友人関係や愛着を再確認させ、地域で活躍する人材育成に寄与することと考える。しかし、新しい成人年齢となる 1 8 歳は、ちょうど受験を迎える時期であり、出席を控える新成人が多数出ることが予想され、再会の場としての意義が薄れる。
- (2) 飲酒、喫煙については年齢が引き下げられないため、成人式後に行われる同窓会等を含む祝いの場での不要なトラブルの要因となる恐れが生じる。

- (3) 対象を18歳に引き下げるとなると切替えの年は18歳、19歳、20歳と3世代に対して同時に成人式を行う必要が出てきてしまう。そうすると、会場、着付け、衣装その他さまざまな業種に混乱をきたすことが予想される。
- (4) 平成30年度に行った内閣府広報室の「青年年齢の引き下げに関する世論調査」においては、成人式の対象年齢について16歳から22歳の71.9%、40歳から59歳の55.0%が20歳が良いと回答しており、また、成人の日と成人式の実施は基本的に同じ時期であるほうが良いかという問いに対しては、16歳から22歳の60.5%、40歳から59歳の58.5%が同じ時期であるほうが良いと回答し、成人式の実施時期については、16歳から22歳の63.4%、40歳から59歳の55.8%が1月が良いと回答している。
- (5) 26市においては、20市が現行どおり対象年齢20歳として式典を実施することを表明している。

以 上